

大規模司書講習における『情報検索演習』の実践について

藤間真¹

[要旨]

現職の図書館員が図書館の専門資格である“司書”の資格を取得するための“司書講習”の内容は図書館法施行規則によって内容が規定されている。その中に必修演習科目『情報検索演習』がある。『情報検索演習』は大学の一般学生対象の科目としても扱いに難しい点があるが、集中形式の講習においては難点が増えてくる。

本報告においては、司書講習の位置づけや意味を踏まえた上で派生してくる問題点を指摘し、報告者が実践においてどのようにその問題点を回避したのかを報告する。

Practice of for information retrieval in large class.

Makoto Tohma

In Japan, the contents of a series of lectures in order to become a qualified librarian are regulated by Enforcement Regulation of Library Law, in which Practice for information retrieval is included. It's difficult to consider and teach Practice for information retrieval as one of the subjects for general education and it is more difficult to teach intensive Practice for information retrieval.

In this report, the actual solutions to those difficulties and problems are stated after those problems are pointed out, taking the meaning of a series of lectures in order to become a qualified librarian into consideration.

¹ 桃山学院大学経済学部

Momoyama Gakuin University (St.Andrew's University) Faculty of Economics

始めに

日本における図書館制度において、図書館の専門職である司書の資格については、図書館法第四条によって「図書館に置かれる専門的職員を司書及び司書補と称する。」と規定されている。その司書の資格を授与されるには次の三つの方法がある。

- 1) 大学（短大を含む）又は高等専門学校卒業生が司書講習を修了し資格を得る。
- 2) 大学（短大を含む）で司書資格取得に必要な科目を履修し卒業を待って資格を得る。
- 3) 3年以上司書補としての勤務経験者が司書講習を修了し資格を得る。

この司書講習の内容については、図書館法施行規則によって内容が規定されている。また、上記第2項によって、各大学で実施されている司書課程の科目も図書館法施行規則に準じている。図書館法施行規則第4条に司書資格科目表を表1に示す。この中で「情報検索演習」は、1996年の図書館法施行規則に伴って新設された科目である。その内容は平成8年の生涯学習局長通知^①によって「データベースの検索の演習を通して、実践的な能力の養成を図る。1) データベースの検索の実際(オンラインの他、オンディスクの演習も含む)」と規定されている。この演習科目に対応する講義科目としては、明文規定がないため異論がないわけではないが、一応「情報サービス概説」が対応するとされているが、「レファレンス演習」もまた「情報サービス概説」を講義科目として持つ演習科目でありこの三科目間の関係については必ずしも意見が一致しているわけではない。いずれにせよ、「情報検索演習」が司書養成のカリキュラムの中では異質な科目であると同時に、コンピュータ利用技術の科目としても異質な科目となっていて、それなりの工夫が必要とされているので、報告者の実践について報告する。

1. 科目の特質

「情報検索演習」はコンピュータを使った資格関連の自習科目であることに起因する下記の特性がある。

1.1. 司書課程と共通する特性

本節においては、司書課程と共通する特性について指摘する。

まず指摘されなければならないことは、この科目で養成する能力は「自分のための検索能力」ではなく「他人のための検索能力」だという点である。このことを情報検索プロセスモデルという視点からすると Eisenburg の Big 6 model^②に代表される通常のプロセスモデルに従った情報検索を教育するだけではなく、Taylor 型のプロセスモデル^③に代表される、依頼者のプロセスモデルに対応する情報検索を教育しなければならないことを意味する。

更に、オンラインデータベースや CD-ROM ベースのデータベースが一般化し始めた1996年当時と、WWW で情報を公開することが当たり前となり、検索エンジンを如何に使いこなすかが情報検索の代名詞となりつつある中で古典的なデータベースについてどれだけウェイトを置くかについてはなお検討の余地がある。

古典的なデータベースを演習で扱う際の留意点としては、構造化されているだけに、ある程度の人

数で同一のものを検索しようとしたときに、レスポンスが悪くなることがまず挙げられる。これは、練習用のデータベースを別に用意していないデータベースを演習に使う際には、同時アクセス人数を制限する必要があることを意味する。また古典的データベースは有料化されているものが多く、演習のための試行錯誤が費用面から制約されるという問題点がある。

ところで、社会的現状を踏まえると、WWW 上で公開される情報が爆発的に増加していることもあり、検索エンジンに長けていることが情報検索能力であるという見方が一般的になってきている。また、昨今の行政の財政事情からは、潤沢な図書館予算は望み薄であるため、無料で検索できる情報しか扱えないことも想像に難くないため、検索エンジンを使った情報検索についてもそれなりの力がないと利用者から見て信用されないという情報が十分想像できる。更に、司書とはいえ森羅万象に通じることが不可能な以上、利用者が知ろうとしていることについては、利用者自身の方が良く知っていることが多く、一般的な情報検索技術について利用者より長けていることを示さないと、図書館そのものの鼎の軽重を問われる危険性があり、そのためにも検索エンジン等の無料の検索技術も涵養する必要が出てくる。

また、情報検索に関する社会インフラ特に WWW サイト経由の情報については、社会的状況もあって変化が非常に激しい。そのため、単純に現状を把握する演習だけではなく、将来的に ICT の状況が変わった段階でも対応できる能力をも涵養しなければならないことになる。

1.2. 司書講習独自の特性

本節では司書講習独自の特性について述べる。

司書講習においては、三ヶ月と言う短期間で表 1 に示すだけの単位を取得できるようにスケジュールが組まれる。しかもこれらのほとんどは図書館情報学系の科目であり、ICT 系の事実技を重視する科目は本科目だけである。このことは、パソコン等に触れたことのない受講生が講習中の「情報検索演習」以外の科目で基本的なスキルを身につけることが期待できないことを意味する。また、自習を求めるのはスケジュール的に酷である。それゆえ、ICT に関するスキルがばらばらで、まったくの初心者も混在することになる。これは、いわゆる一般情報教育科目などを先行要件にできる司書課程より条件が厳しいことを意味する。また、講習そのものが集中形式であると同時に、講習の科目を年次進行的に何科目かずつ履修したり、一部の科目を通信教育によって履修したりする受講生も一定数いることから、科目配置も集中的に行う必要がある。それゆえ、1 週間後の講義までの宿題、という形で自習を促すことはできない。

2. 報告者の方針

本章では上記の特色を踏まえた報告者の科目運営方針について述べる。

まず、第一の方針としてあまり実践力に拘らず、色々な実践を体験してもらうことに注力している。この理由は、司書講習を終えた受講生が即実践力が必要となる場面はむしろ少ないだろうということと、一度講習を終えると幅広い実践に触れる機会は非常に少ないだろうという言う視点からである。この、色々な実践の中には有料データベースにも触れることや桃山学院大学図書館の実践、更には情報検索技術者という視点にも触れことを加味している。このため、特別に予算措置をお願いして、部分講師の導入と有料データベースの ID 登録をも行った。特に、商用データベースについては、当該デ

データベースについて堪能なゲスト講師に、適当に試行錯誤しながらも課金が予算範囲を超えないように、工夫した演習をお願いした。

第二の方針としては、ICT に深入りせずにその部分の時間を他の教育に回すということである。この理由は、司書講習科目としては別に「情報機器論」という科目があるということと、図書館員としての専門性は使いこなすことという視点から、最小限の知識以上は優先度が低いと判断されることの2点である。

第三の方針として、自己学習能力を高めるということである。現実問題として ICT の急激な変化を考えると固定的なことを教えて資格の永続的認定を教えることには疑問がある上、図書館員に限らずどのような専門職においても日々研鑽に努めるのは当然のことであり、そのために基礎能力をつける必要があると判断して目標に掲げている。

上記の方針にのっとり、ペーパー試験は行わず、毎日の最後にその日の課題の回答を書かせると書くと同時に、「自分を褒めてやりたいことを書く」「今日やったことを踏まえて質問を書く」という指示に従って書かせた日報によって評価を行った。前の指示に関しては『情報検索のスキル』^④で三輪眞木子が主張する、自己効力感を考慮に入れた設問であり、後者は、疑問を抱いてこそ自己成長が望めるし、質問そのものに理解の程度が反映されているという質問書方式^⑤の変形の設問である。

3. 演習概要

本章では演習の概要について述べる。

本演習は4日間の集中講義形式で行った。1日目と2日目の朝は中教室を使った座学で講義と机上演習を行った。2日目の昼前から4日目一杯は実習室で行った。さまざまな実践に触れてもらう目的もあり、また、実習室がパーティションによって二分割可能な定員100人の部屋2部屋しか確保できなかったこともあり、4クラスにクラス分けして順次色々な実践に触れることができるように設定した。

まず、1日目の午前については、基本的な座学と机上演習を行った。その際、VTR シリーズ『新・図書館の達人』の情報検索の巻^⑥も視聴した。その際、記憶定着のため、付録資料を白抜きにして配り、必要に応じて VTR を止めて記入させた。

1日目の午後の前半は古典的データベースについてうまくまとまっている試験であると同時に、スキルアップのための次のステップの紹介という意味も込めて情報科学技術協会(INFOSTA)²の情報検索技術者試験の概要について講義をしてもらった。

1日目の午後の後半は、情報検索に関する危険性を含め、図書館情報学でよく言及される VTR を解説しながら視聴する時間とし、その間にパソコンスキルに自信がなくパソコンの基本訓練を希望するものにパソコンの基本的操作を教えた。この基本操作練習の時間では、Web ブラウザーが使いこなせる程度のマウス・キーボード操作とキーワードがゆっくりでいいから入力できる程度の日本語変換能力に絞り、とにかく、恐怖心を取り除くことに主眼点をおいた。

2日目の朝は、インターネットの簡単な歴史を技術的概要について簡単に論じた。その際、いわゆる「ハッカー精神」についても触れ、自主的に考える技術者集団が初期のインターネットの基盤を築

² <http://www.infosta.or.jp/>

いたことを通じて「プロ意識」の涵養に努めた。二日目の昼前からは、クラスをわけて、「WWW の利用（１）」「生活情報検索」「図書館のサービス」について解説を交えながら演習を行った。「WWW の利用（１）」の内容については後述する。「生活情報検索」においては、有料データベースと検索エンジンを対比させながら日常生活に関連する情報についての検索を、その分野に堪能なサーチャーに解説し実演してもらった。また、「図書館のサービス」については、桃大図書館の職員に、利用者サービス上の工夫点も交えながら、桃大図書館での実践を踏まえた解説と演習をお願いした。

３，４日目は、「有料データベース」「NACSIS-IR 入門」「検索演習用 CD-ROM」「WWW の利用（２）」について各クラス順次演習を展開した。「有料データベース」においては、経験豊かなサーチャーに、課金が予算を超過しないように工夫しながら試行錯誤を行うこと、有料データベースには使い方によってはお金を払うだけの価値があることを体得できるように演習を展開していただいた。「NACSIS-IR 入門」においては、国立情報学研究所より、NACSIS-IR の研修用 ID の貸与を受け、同研究所発行のマニュアルに従って NACSIS-IR の基本を扱った。「検索演習用 CD-ROM」においては、検索演習用に切り出したデータベースを収蔵する CD-ROM 付書籍^⑦を人数分用意して課金に懸念のない古典的データベースの利用演習を行った。

４ WWWの利用詳細

本章では「WWW の利用」について詳細を述べる。このような検索エンジン等を活用した情報検索は必ずしも図書館情報学の本道とはいえないが、現場ではよく使われているし^③、利用者からの印象から言ってもこのようなスキルを身につける必要もある。

ここでの方針は、

- ①印象に残り、現場に立ったときに蘇るように、実体験を重んじる。
- ②初心者でもそれなりにわかる。
- ③熟練していても退屈しない。
- ④現在の検索エンジンのテクニックもある程度は扱う。
- ⑤単なる現状の後追いに終わらない。
- ⑥公共図書館の特性に鑑み、図書館という思想につながるよう「地域性」に考慮した問題も提供する。

というものである。

また、基本的な検索エンジンの利用法として、

- ① 公式サイトを探す。
- ②リンク集を探す。
- ③専用サイトを探す。
- ④キーワードに工夫が必要な問題を交える。
- ⑤キーワードを入れるだけでは駄目な問題を交える。

というスタンスで問題作成を行った。以下で具体的な問題例と出題意図を述べる。

「桃大のエンブレムの横文字の意味を調べなさい。」
「桃大の今年度の入学生の男女比率を調べなさい。」
「桃大和泉キャンパスから和泉府中駅に行く行き方を調べなさい。」

これらは、公式サイトで確認することの重要性を体験するための問題である。

「地図を検索できるサイトを調べなさい。」
「自分の自宅付近を何種類かの地図サイトで検索して結果を比較しなさい。」
「桃大和泉キャンパスから南に見える山の名前を調べなさい。」

これらは、地図サイトについて知らない受講生に存在を教えること、複数の資料を比較対照することの重要性を体験せしめること、地図利用の応用のための問題である。

^③ 実例については、『図書館雑誌』の事例報告連載「レファレンス三題噺」等を参照されたい。

「乗換え情報を検索できるサイトを調べなさい。」「自分の自宅まで帰る帰り方を何種類かの乗換え情報サイトで検索して結果を比較しなさい。」「桃大和泉キャンパスから昭和町キャンパスに向かうのにいい乗換え手段を調べなさい。」「桃大和泉キャンパスから和歌山駅に向かうのにいい乗換え手段を調べなさい。」

これらは、地図サイトについて知らない受講生に存在を教えること、複数の資料を比較対照することの重要性を体験せしめること、公式サイトとの対比の重要性を体験せしめるための問題である。

「サーチエンジンの比較を行っているサイトを探しなさい。」「複数のサーチエンジンを選び、それぞれでの検索式の指定の仕方を調べなさい。」「映画「ロードオブザリング」に関し、最新作を除くための論理差検索を複数のサーチエンジンで行いなさい。」

これらは、検索エンジンを比較対照することの重要性を体験せしめること、マニュアルを読むことの重要性を体験せしめるための問題である。

「英文を翻訳してくれるサイトを探した上で <http://www.google.com/technology/pigeonrank.html> を訳させてみなさい。」「歌詞を検索するサイトを探しなさい。」「地図検索サイトを一つ選び、使用に関する制限を確認しなさい。」「国土地理院の地形図閲覧システム <http://watchizu.gsi.go.jp/> で自分の卒業した小学校の近くの地図を出しなさい。」「いくとこガイド(<http://www.ikutoko.com/>)を使い、桃大（大阪府和泉市まなび野）の航空写真を探しなさい。」「国立国会図書館の WARP プロジェクト(<http://warp.ndl.go.jp/>)に保存されている、日韓ワールドカップの公式ホームページを見て、何ヶ国語で情報開示されていたかを調べなさい。」「<http://www.archive.org/> を使って過去の桃大のホームページを見なさい。」

これらは、種々の情報源が Web 上で公開されていることを体験せしめるための問題である。

「図書館に関連するメーリングリスト、メールマガジンを探しなさい。」「インターネットのどこかにレファレンスの格言があると聞きました。」

これらは、司書自身が作っている、司書として助けになる資料集が Web 上で公開されていることを体験せしめるための問題である。

「どこの人かはわかりませんが、篠山先生とかいう人が“検索の達人に挑戦：サーチエンジン・クイズ”というページを作っているそうです。勉強のためにさがしたいのですが。」

これらは、種々の情報源が Web 上で公開されていること、人名はうろ覚えの可能性のあることを体験せしめるとの問題である。

「奉行にも名前のわからない魚の名前を知っている者に褒美を出す、というおふれを見て、誰もわからないなら嘘を言ってもばれないだろうとでたらめを言った男が出てくる古典落語があると聞いたが。」

これらは、古典落語のデータベースも Web 上で公開されていることを体験せしめると同時に、誰も知らないことであれば、出鱈目でも見分けにくいということにも触れるための問題である。

「日本を代表する SF 作家の誰かの作品群に「ゴルディアス四部作」と呼ばれる 短編があるって聞いたので、読みたいのですが？」

この回答は具体的な作品名ではない。収録されている書籍を探すことを通じて利用者のニーズに答えることが目的であることを体験せしめるための問題である。

「雷の時に「くわばら」と唱えることの元になった土地が桃大の近くにあると聞きました。どこですか?」「桃大の近くにテレビチャンピオンで優勝したケーキ屋があるそうですが?」「和泉市立シティプラザ図書館の写真を探さない」「陰陽師の安倍晴明は「葛の葉」という狐に育てられていたのだが、その狐が正体がばれて帰郷した先に、狐をまつた神社があるといいます。その神社はどこでしょうか。」

これらは、公共図書館に要求される、地域性に拘る考え方に触れるための問題である。

民名書房から出ている「世界スポーツ奇譚」という本によると、フェンシングの源流は中国秦代に遡るそうだという切り抜きを持ってきた子供がいます。どうしますか?

民名書房は架空の出版社であり、「世界スポーツ奇譚」も架空の存在である。架空の書物であることをどのように立証し説明するかについて考えさせる問題である。なお、問題においては、信憑性が出るよう、マンガの切抜きを入れて印刷した。

「google で “site:dictionary.goo.ne.jp 差別” と検索することと、goo の辞書サイト (<http://dictionary.goo.ne.jp/>) で「差別」を検索することを比較しなさい。」「技術英語の xoops の読みを調べたい。」「論文に「paper chromatography」とあるが誤植らしい。」

これらは、google のテクニックを体験せしめるための問題である。

「google で “藤間 真” と “真 藤間” での検索結果を比較しなさい。」

これは、検索エンジンの結果は単純な論理演算の結果ではないことを体験せしめるための問題である。

4. 受講生の評価

全講習終了後の受講生アンケートの結果を図 1 に示す。科目の特性を踏まえるとおおむね良好ともいえるが、まだまだ改良の余地があるとも言える。特に、書かれた質問によって評価を行うという評価法の妥当性について疑問視する自由記述が多かったことは、評価方法の更なる洗練が必要と考える。

表 1 図書館法施行規則の科目表

群	科目	単位数
甲群	生涯学習概論	1
	図書館概論	2
	図書館経営論	1
	図書館サービス論	2
	情報サービス概説	2
	レファレンスサービス演習	1

	情報検索演習	1
	図書館資料論	2
	専門資料論	1
	資料組織概説	2
	資料組織演習	2
	児童サービス論	1
乙群	図書及び図書館史	1
	資料特論	1
	コミュニケーション論	1
	情報機器論	1
	図書館特論	1

甲群はすべて必修、乙群は2科目以上の選択必修

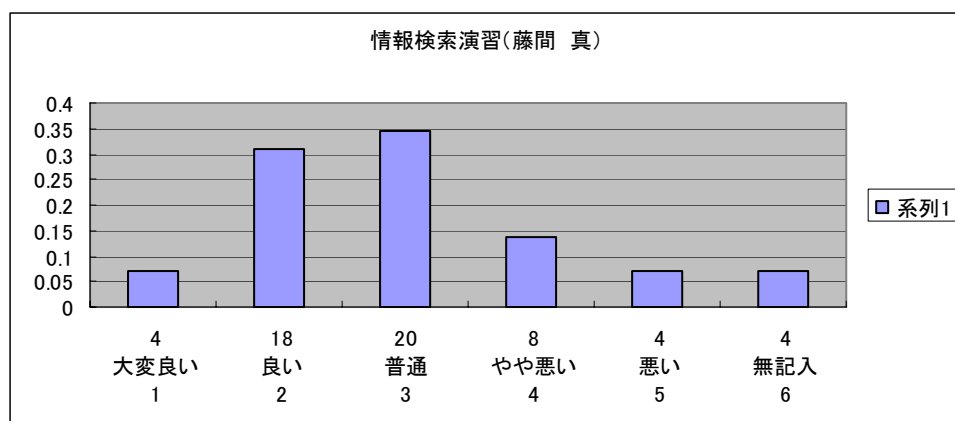


図 1 受講生アンケートの結果

①平成 8 年 9 月 6 日文生学第 180 号各国公私立大学長、放送大学長あて生涯学習局長通知

② <http://www.big6.com/>

③ Taylor,R.S. Question,negotiation and information seeking in libraries. College & Research Libraries,29:179-189(1968)

④ 『情報検索のスキル：未知の問題をどう解くか』 三輪眞木子著. 中央公論新社, 2003(中公新書:1714)

⑤ 『さよなら古い講義』.田中一著,北海道大学図書刊行会.1999

⑥ 『情報検索入門』. 紀伊國屋書店, 1998(Library video series, 新・図書館の達人:3).

⑦ 『情報検索の演習：CD-ROM 版, 新訂版』. 情報科学技術協会編. 日外アソシエーツ/紀伊国屋書店(発売), 2003.